

令和4年度 桂小学校 「学校教育アンケート」 考察

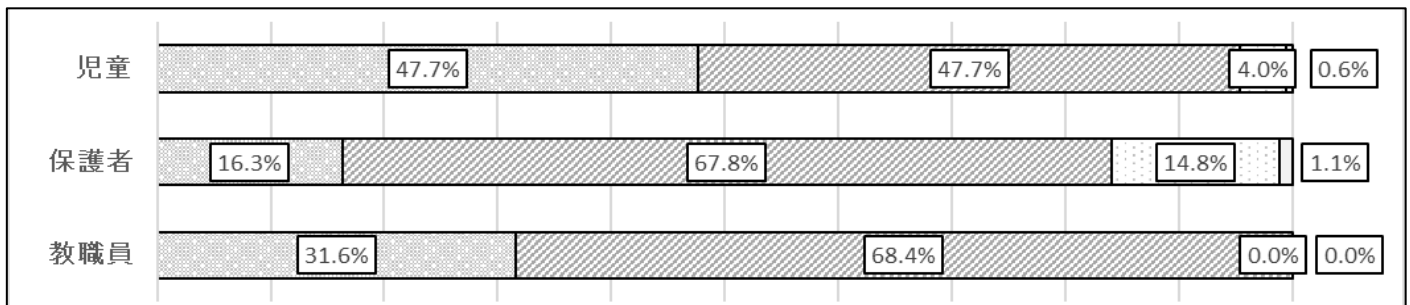
令和4年度の1回目の「学校教育アンケート」を7月に行いました。保護者の皆様には、お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。今年度も、スマートフォンやタブレットを利用した形式でアンケートを実施しました。今回264の回答を得られ、回答率は約76%となりました。昨年度の1回目よりは高い回答率となりましたが、今後もより高い回答率を得られるよう工夫していくことが必要だと感じています。

このアンケートは、桂小学校の実態を明らかにし、よりよい学校運営に活かしていくことを目的としています。回答は「よくできている」「だいたいできている」「あまりできていない」「できていない」の4つの中から選択してもらいました。以下にアンケートの結果を記しますが、「よくできている」と「だいたいできている」を一つにまとめて「できている」、「あまりできていない」と「できていない」を一つにまとめて「できていない」ととらえて考察を行っています。昨年度との比較は同じ時期に実施した、令和3年度・1回目の結果と行っています。

質問① (児) 授業がよく分かる。

(保) 子どもに基礎的な学力が身につくように働きかけている。

(教) 基礎基本が定着できるようにわかりやすい授業づくりを心がけている。

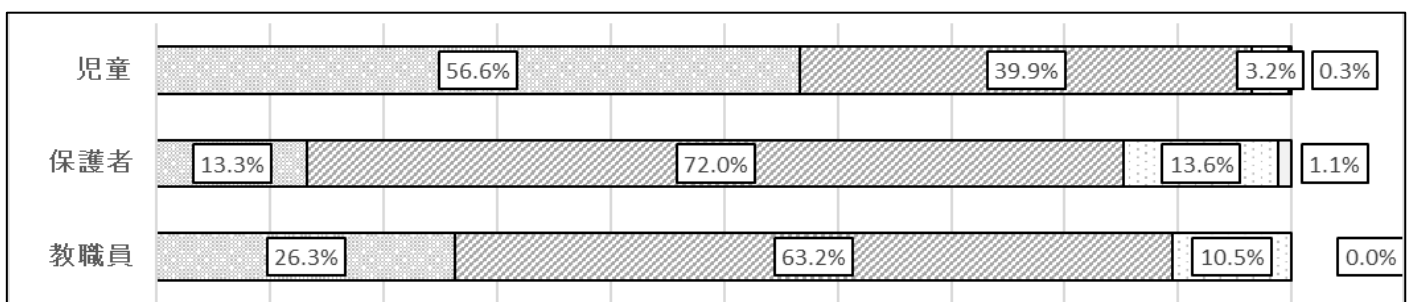


約95%の児童が「授業が分かる」と回答しており、多くの子が前向きに学習に取り組んでいる様子がうかがえます。しかし、昨年度の同時期と比べると「よくできる」と回答した児童が約8%減少しています。学校の教育活動の多くの時間は授業であるため、とても大切な指標であり、これからも分かる楽しい授業づくりを目指していく必要があります。本校では、授業の学習課題に応じた「めあて」と「振り返り」を意識した授業づくりを全学年で行っています。また、実感をともなったより深い学びにつなげられるよう、話し合い活動を大切に授業づくりの工夫にも取り組んでいます。2学期以降もよりよい授業を目指して、改善に取り組んでいきたいと考えています。

質問② (児) 進んで家庭学習をしている。

(保) 子どもに家庭学習が身につくように働きかけている。

(教) 家庭学習の習慣が定着するように取り組んでいる。



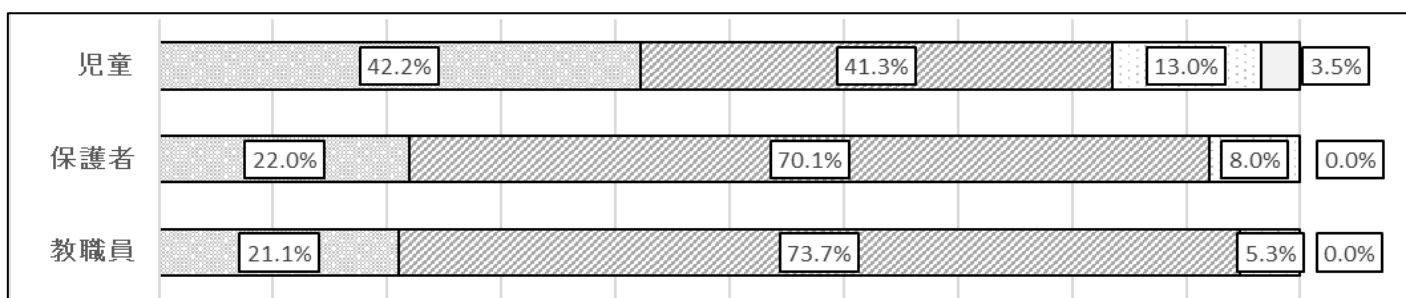
ほとんどの児童が家庭学習に進んで取り組んでいると回答しています。また、昨年度と比べると「できていな

い」と感じている児童の割合が6.7%から3.5%に減少したこともうれしい結果となりました。本校では、「自分で学習できる力」を卒業までに身に付けさせることが大切であると考えており、3年生以上の学年で自主学習にも取り組ませています。家庭学習の意義を児童自らが理解し、進んで取り組めるように継続して指導していくことで、自ら学びに向かう児童が増えてほしいと考えています。また、家庭学習習慣の定着のためには、家庭の協力が欠かせません。各家庭でルールを定め、低学年からしっかりと習慣づけるよう取り組ませることが大切です。

質問③ (児) 授業では自分のおもいを伝えることができる。

(保) 子どもに自分のおもいが伝えられるように働きかけている。

(教) 子どもがおもいを伝えられるような授業や取組を工夫している。

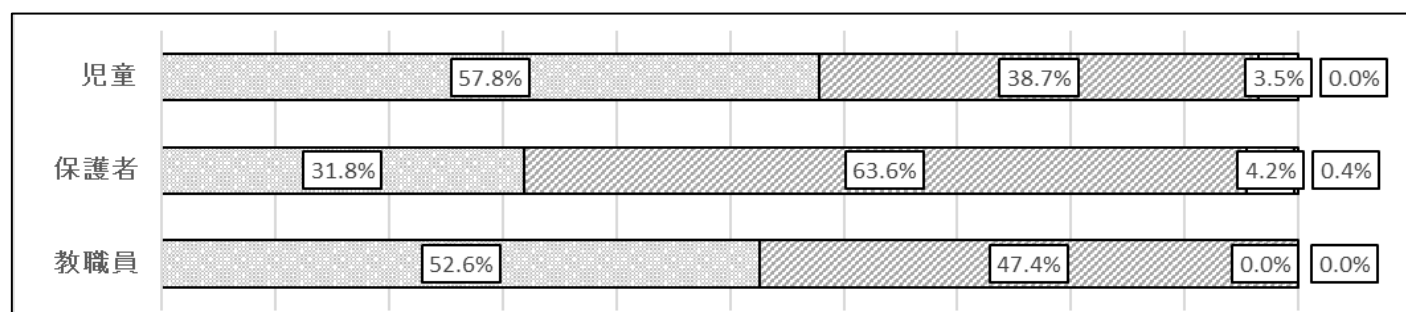


話し合い活動や伝え合う活動を大切にしている本校ですが、昨年度はこの指標のパーセントが上がらず、課題と感じている項目でした。今年度、「おもいを伝えることができる」と感じている児童は83.5%となり、昨年度よりも6.8%の上昇がみられました。感染症の影響で、グループ学習や集会活動が制限される時期もありましたが、タブレット端末などのICT (Information and Communication Technology) を活用するなど、実施可能な方法を探りながら行った取組の成果であると感じています。今後もコロナ禍でも実施可能な取組の方法を蓄積していくなど、より効果的な活動内容を模索していく必要もあるでしょう。おもいを伝え合うことを楽しいと感じ、その効果を児童が実感できるような取組を目指していきたいと考えています。

質問④ (児) 学校の決まりや約束を守っている。

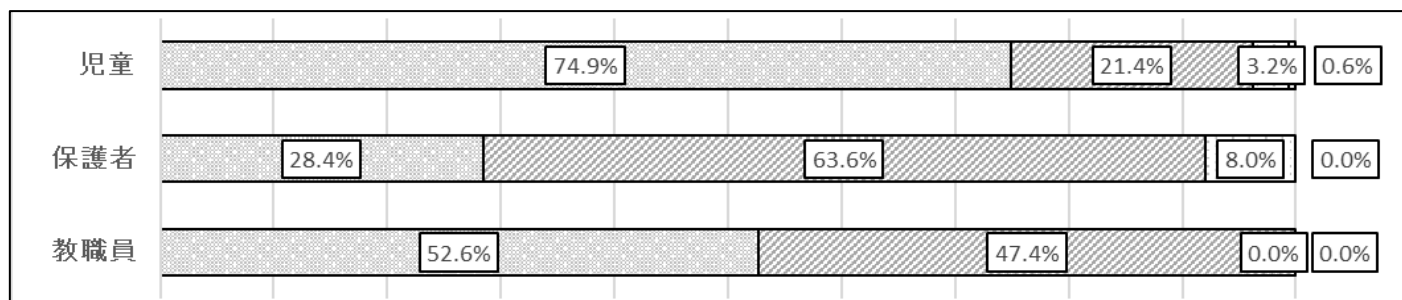
(保) 子どもが学校のきまりや約束を守って生活できるように声かけをしている。

(教) 決まりや約束を守ること、みんなが気持ちよく生活できることを伝え、適切に指導している。



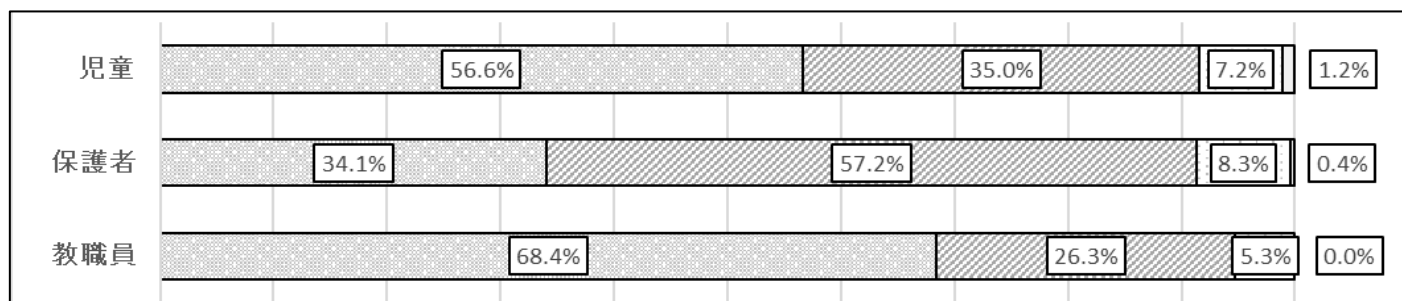
約97%と多くの児童が「守れている」と回答しており、昨年度同様、みんなが気持ちよく過ごせるように一人一人が意識して学校生活を送っている様子が結果からうかがえます。落ち着いた学習環境を維持することは、学習効果の向上や児童が安心して学校生活を送れることにつながっていきます。日々の観察を大切に、気になることがあればその都度指導したり、“どうしていけないのか” “どうすればよかったのか” を児童が理解できるよう丁寧に指導したりしています。毎月おこなっている児童朝会では、児童会の子どもたちが中心となり、よりよい学校生活が送れるように全校児童に呼びかけもおこなってくれています。こうした、高学年の児童の正しい姿が低学年の学びにつながっていると感じています。

- 質問⑤ (児) 友だちやまわりの人を大切にしている。
 (保) 子どもに、人を大切にした言葉づかいや行動を意識させている。
 (教) 人を大切にした言葉づかいや行動をするようにしている。



「よくできている」と回答した児童が74.9%、「できている」と回答した児童が21.4%となり、多くの児童がまわりの人を大切にした行動をとることができている状況が見えてきます。学校では先生たちが、自分と違うところを認め合える雰囲気づくりや、苦手なことに努力する友だちに対して温かい声かけをする雰囲気づくりを意識して取り組んでいます。また、良さや頑張りに目を向け、小さなことでもその都度積極的に声かけをおこなうことも大切にしています。こうした小さな積み重ねが、6年間を通して少しずつ子どもたちの人権感覚の育成につながっていくのだと思います。「人を大切にしている」と胸を張れる桂小学校の児童がこれからも増えていくよう、学校での指導も引き続き行っていきたいと思います。

- 質問⑥ (児) 自分からすすんであいさつしている。
 (保) 子どもが自分からすすんであいさつするように、家庭で声かけや自らあいさつをしている。
 (教) 子どもがすすんであいさつできるように、声かけや自らあいさつをしている。

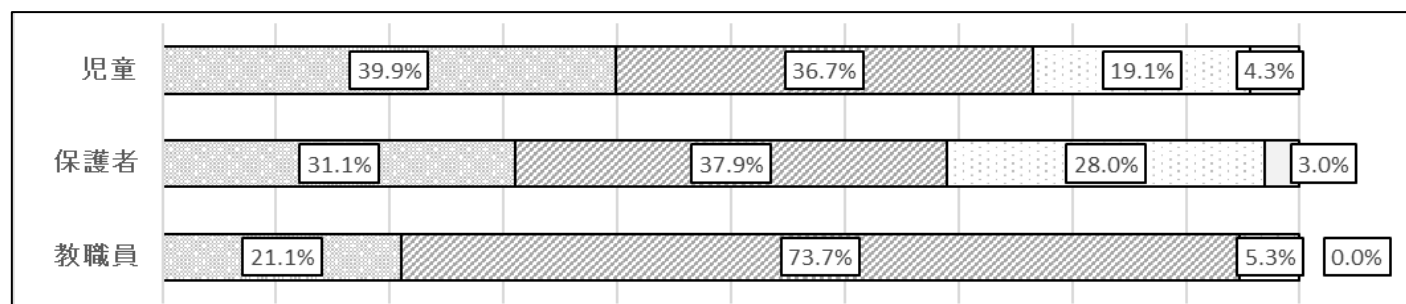


あいさつは人と人をつなぐ大切なものです。アンケートの結果からも、教職員・保護者の方たちの意識の高さがうかがえます。子どもたちには、気持ちのよいあいさつの重要性を理解し、そのスキルを身につけて卒業してほしいと思っています。そのためには、継続した声かけが必要です。家庭・地域・学校が協力することでその効果も高まると考えています。本校では、毎月25日を「にこにこの日」として、5・6年生が交代であいさつ運動を行っています。PTAの方も一緒に取り組んでくださっており、よい意識づけになっていると感じています。自然とあいさつが飛び交う桂小学校を目指して、これからも地域ぐるみで取り組んでいけたらと考えています。

質問⑦ (児) 早寝早起きをしている。

(保) 家庭で、早寝・早起きを習慣づけている。

(教) 早寝早起きなどの基本的な生活習慣が定着するように、子どもや家庭に働きかけている。

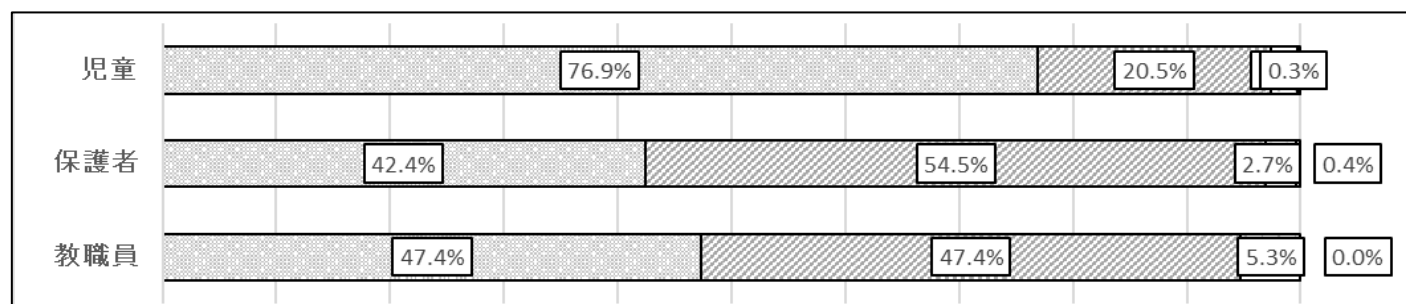


昨年度と比べると多少の改善は見られたものの、今年度も児童の自己評価が最も低い値となった項目でした。(「できていない」と回答した児童の割合が23.4%) また、昨年度と比較すると保護者の方たちが「できていない」と感じている世帯の割合が増加しています。小学生の時期は心身の発達が著しく、睡眠や規則的な生活習慣が重要な役割を担っていることを考えると、改善すべき項目であるといえるでしょう。就寝時間を定めて家族みんなで協力するなどの工夫も必要です。特に夏休みや冬休みは生活習慣が崩れやすい時期でもあります。長期休業の後には、生活調査を取り入れ、状況を把握し、改善に向けてアドバイスする取組も行っています。学校での児童の様子を家庭にフィードバックするなど、家庭と学校が協力して取り組んでいけたらと思います。

質問⑧ (児) 安全に気をつけ、命を大切にした行動をしている。

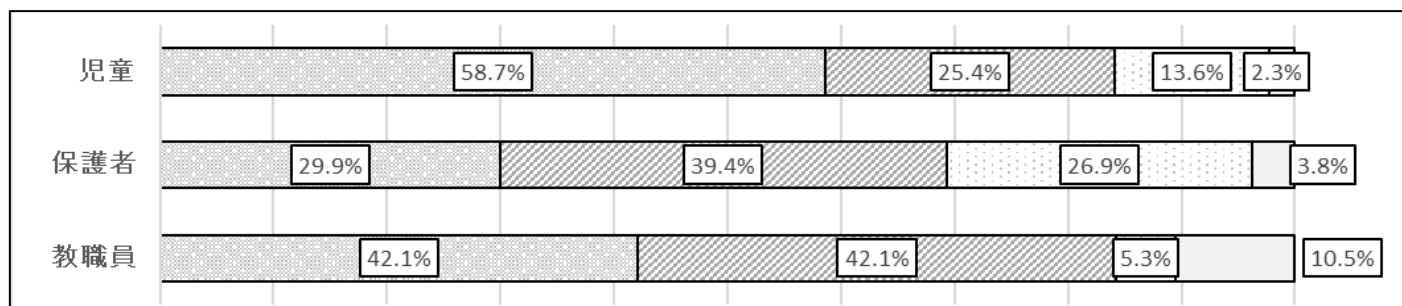
(保) 子どもに安全に気をつけ、命を大切にした行動を意識させている。

(教) 命の大切さ、命を守る行動をとることの大切さについて適切に指導している。



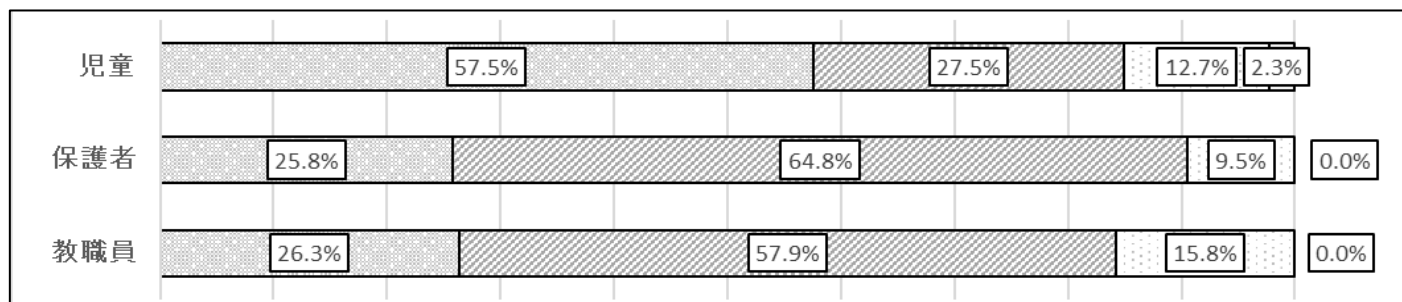
昨年度に引き続き、「よくできる」と回答した児童の割合が最も高い項目となりました。子どもたちの安全に対する意識の高さがうかがえます。学校が安全な場所であるということはとても大切なことです。本校では毎月、施設の安全点検を行い、不備が確認された場合は、すぐに修繕できるよう心がけています。また、自分の命を自分で守れる子の育成を意識して、避難訓練や毎月の安全指導も行っています。今年度6月には救命救急講習の他にも、緊急時対応訓練を企画・実施し、子どもたちの安全を守れるよう教職員研修も行っています。6年生では、水難事故に対する意識の向上を目指して、着衣泳の学習を取り入れています。さらに、桂校区では、みまもり隊や地域の方の安全指導も積極的に行われていることも、子どもたちの意識向上に影響していると考えています。引き続き、熱中症対策や災害対策など、季節や状況の変化にも対応できる生きる力の育成を目指して、これからも継続して安全指導をおこなっていききたいと思います。

- 質問⑨ (児) スポーツや外遊びで、身体を動かしている。
 (保) 子どもにスポーツや外遊びで体を動かすように働きかけている。
 (教) 心と体を一体としてとらえた体育学習の充実に向け、授業や取組を工夫している。



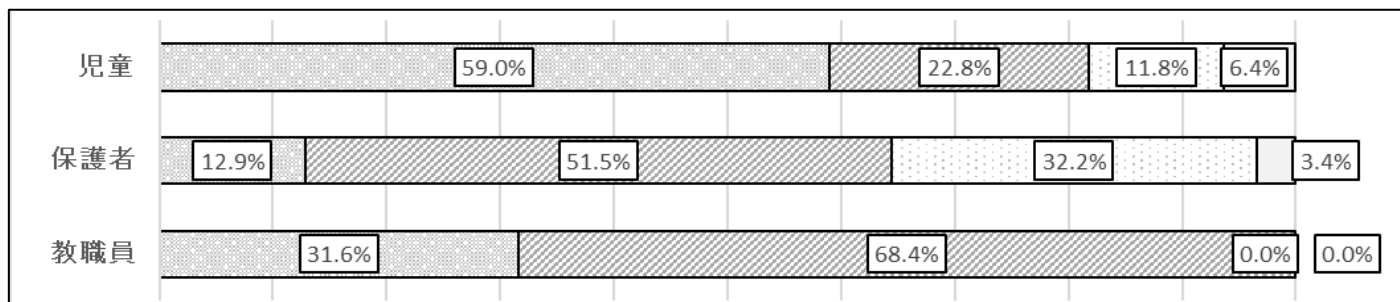
今年度より3年生以上の体育学習が専科となり、林先生が指導しています。「体を動かすのが楽しいと感じることを大切に、生涯体育・生涯スポーツにつながるように意識しています。」と体育学習の充実に向けて、いろいろと内容を工夫してくださっており、体育学習の充実を感じています。これからも体育の授業では、スポーツや運動の魅力を伝え、生涯を通して運動に親しんでいけるように指導していきたいと考えています。また、休み時間には多くの子が運動場に出て、外遊びを楽しんでいます。心身の健康維持や、体力向上にも外遊びは有効だといわれています。また、異学年や集団での遊びを通して、ルールを守ることの大切さに気付き、協調性も育ちます。今年度は運動委員会が、定期的にスポーツ大会を企画してくれていますが、今後も、心と体が成長できるような体験を学校でもできるよう意識して取り組んでいきたいと思っています。

- 質問⑩ (児) 家で学校でのできごとを話している。
 (保) お便りやホームページ、子どもの話などから、学校での子どもの様子を把握するように心がけている。
 (教) お便りやホームページで学習活動のねらいや子どもの様子を伝えている。



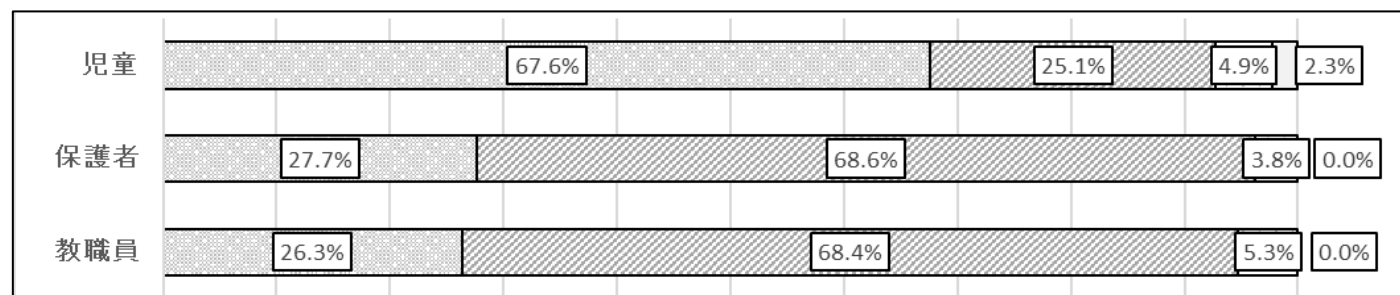
昨年度の結果と比較してみると、保護者の結果で差が見られました。昨年度は約33%の方が「できていない」と感じていたのが、今年度は約10%にまで減少しています。子どもの状況を把握しようと意識いただいていることが分かります。学校でも、そんな保護者の方のニーズに応えるため、学級通信やホームページを通して、学校の様子や教育活動のねらいをお知らせすることを大切にしています。保護者の方に子どもの様子や学校の取組の意図を理解していただくことは、教育効果を向上させるためにも重要です。今年度からはPTAメール配信サービスを利用するなど、より使いやすい・分かりやすい情報の発信の仕方も工夫していきたいと考えています。これからも、子と親のつながりをサポートできるよう、有意義な情報を多く発信することを目指して、通信やホームページを改善していきたいと思っています。

- 質問⑪ (児) PTA 行事や地域の行事には、楽しみにしていることがある。
 (保) 子どもが PTA や地域の行事に参加できるように働きかけている。
 (教) 開かれた学校を目指して、地域・保護者と連携・協力することを意識している。



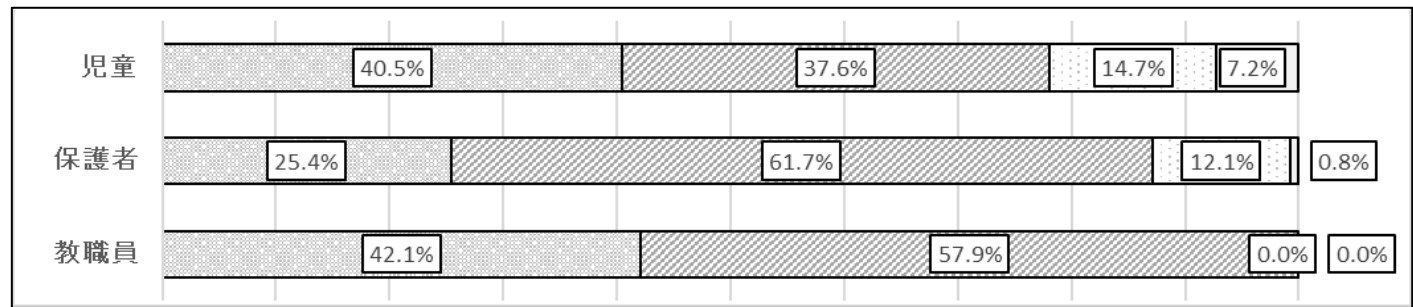
今年度、桂小学校は150周年の節目を迎えます。1学期にはPTAの本部の方たちが中心となって、全校でモザイクアート作りに取り組み、どの子も素晴らしい経験をすることができました。12月には、地域の方と一緒に「150周年記念学習発表会」を行う計画もしており、これらの行事や取組を通して桂小学校の伝統を知り、より愛着をもってくれたらと考えています。また、少年補導の方々やおやじの会の皆様など、多くの団体・関係者の方にも行事の見守り活動に携わっていただき、本当に感謝しております。桂の子どもたちを取り巻く様々な団体が協力しあい、子どもたちのために活動できるようこれからも働きかけをしていただけたらと思います。

- 質問⑫ (児) 学校では楽しく過ごしている。
 (保) 子どもが楽しく学校に通えるように家庭でも働きかけている。
 (教) 子どもが学校へ行きたいと思える学級経営を心がけている。



およそ93%の児童が「楽しく過ごしている」と回答をしており、多くの子が楽しく学校に通えている様子が分かります。しかし、友だち同士のトラブルや学習に対する不安がないわけでもありません。学校に笑顔で楽しく通ってほしいというのは学校の願いでもあり、親の願いでもあることと思います。本校では、6月と10月にはいじめアンケートと教育相談を設定し、子どもたちの悩みや不安を吸い上げられるようにしていきます。また、日々の観察も大切にし、早期発見・早期解決につなげられるよう、学校でも組織的に取り組んでいます。7%の児童が楽しくないと回答している事実を受け止め、どのように対策していくのか組織的な課題としてとらえ努力していきたいと思っています。

- 質問⑬ (児) 困ったときは、学校の先生に相談している。
 (保) 困った時などは学校や担任に、質問したり相談したりするようにしている。
 (教) 子どもや家庭から個別の相談を受けたとき、解決にむけて真摯に対応している。



2割の子が、困った時に先生に相談していない、または相談できていないと回答しています。これは昨年度とほぼ同一の値であり、改善しているとはいえない状況であることが分かります。昨年度の学校運営委員会でも話題にあがり、優先的に対策を講じていく必要のある項目であると考えます。信頼できる教職員であれるよう、児童・保護者とのコミュニケーションを積極的にとるようにしたり、学年・学校体制で相談に対応したりするなど、必要なときに必要な助けやアドバイスが受けられるような学校であれるようこれからも努力していこうと考えています。